

## 第9回多摩市産業振興推進会議 議事録

日 時 令和8年2月18日(水) 午後6時00分～午後7時53分

会 場 多摩市役所 第二庁舎会議室

議 題 (1) 令和8年度事業について

報 告 (1) 第8回多摩市産業振興推進会議議事録について

(2) 令和6年度経済センサスの調査結果について

(3) 今後の予定について

出席委員 会 長：松本 祐一

副会長：堀江 秀一

委 員：野嶋 琢也

委 員：岩井 隆之

委 員：野村 和伸

委 員：木村 康二

委 員：沖田 敏浩

委 員：田口 真弘

委 員：神田 篤

委 員：佐伯 瑞絵

委 員：平野 紀美子

委 員：小柳 一成(都市整備部長)

委 員：磯貝 浩二(市民経済部長)

欠席委員 横溝委員

事 務 局 麻生経済観光課長、商工観光担当：緒方、沢出

配布資料 資料1 委員名簿

資料2 第8回多摩市産業振興推進会議議事録

資料3 令和6年度経済センサスの調査結果について

資料4 進行管理表

資料5 多摩市産業振興マスタープラン

資料6 多摩市産業振興マスタープラン(概要版)

(午後6時00分 開会)

事務局 会議の開会を宣言し、配布資料をタブレットにて確認。

会長 委員14人中、13名の出席、多摩市産業振興推進会議設置要綱第6条3項に基づき会議開催が成立することを報告する。議事録署名委員は磯貝委員と佐伯委員にお願いする。

本日は、協議事項が1件、報告事項が3件、報告事項について事務局から説明をお願いします。

事務局 報告(1)「第8回多摩市産業振興推進会議議事録について」、資料2「第7回多摩市産業振興推進会議議事録」より説明、報告(2)「令和6年度経済センサスの調査結果について」、資料3「令和6年度経済センサスの調査結果について」により説明、報告(3)「今後の予定について」口頭にて説明を行う。

会長 質問等があればお願いします。

委員 サービス業の従業員がかなり伸びているが原因などは掴んでいるか。

事務局 原因は掴んでいない。

委員 事業所数はあまり変動がないように見えるが、他の行政と比較した成長具合はどのようなものか。

事務局 東京都の傾向とは合致している。調査年度により違いはあるが、事業所数については横ばいとなっている。

会長 統計上参考値となっている部分がどれだけ影響しているかわからない部分もある。多摩地域含めて事業所数は減っている傾向にあるので、キープしている方だと思う。

委員 産業構造は地域の特性がそのまま反映されていると思うのが第一印象、構造は簡単には変わらないので。開廃業率は、電気・ガス・熱供給・水道業はすごい開業率が高いように見えて、東京都が高いからそういう業種なのかなと思うが、ここだけ飛びぬけているのに何か理由があるのかと見ていて思ったが。

会長 大分類だけではわからないので、もう少し小分類まで見ていかないと何が増えているかはわからない。

委員 開業率でどのくらいの年代の人が開業したか、多摩市近隣は大学生などの年代が多く、その年代の人が開業・チャレンジすることが一番特徴になると思うが、そこに注力していくのが重要であると思った。

会長 創業者の年代について肌感覚ではどう感じているか。

事務局 年代の偏りはあまりないように思うが、強いて言えば40～50代が多くなってくると思う。

会長 多摩市の創業塾の参加者を見ると、近年福祉系が多く、趣味を展開している女性や若手もいる。多摩市をマーケットとして見た時に、若者向けのビジネスを多摩市でやるのはなかなか難しいところもあるので、福祉系が多くなっていく傾向があると思う。

委員 サービス業の事業所数の推移で、宿泊業・飲食サービス業について、年次をみるとコロナの時に駅近隣の飲食店の閉店が多かった、それが戻ってきていないのは市として

も非常に大きなことである。医療・福祉について、高齢化により介護事業所や医療機関も増えているが、一方で、行政では子どもにかけのお金も増えており、学童クラブ、放課後こども教室、保育の延長などで児童福祉、障害福祉、介護、病院も増えている。

委員 創業融資で福祉系は多い、あとは飲食、建設業など。

会長 議題（１）「令和８年度事業について」事務局から説明をお願いする。

事務局 年度末が近づいているので一部事業の実施結果及び来年度事業について情報共有させていただき、意見などをいただければと考えている。すべての事業結果については次回の推進会議で確認させていただく。

「資料４ 進行管理表」により説明。

会長 説明した事業の中で気になること、質問などがあれば伺う。

委員 経営塾についてアンケートはとっているか。

事務局 アンケートは集計中のため、結果は次回報告させていただく。

会長 この事業は三者連携で実施している事業の一つで、企画の段階から関わっているが、かなり実践的な内容で、最初にデジタルマーケティングの基礎から入り、最後はインスタグラムを実際に使うといったところまで、受講するにつれて具体的になっていくプログラムになっており評判はいい。

委員 創業塾・経営塾などの取り組みで、事業周知を頑張るといったところがいくつかあったが、多摩市のホームページを見てみると、情報として書いてあるが、何かを始めたいと思っている人がたどり着ける形ではないと思う。事業者支援の下のセミナーのところに、相続とかと並べて創業塾とか経営塾がある。新規の人を勧誘するという視点で、構造や見せ方をもう少し変えてもいいと思うが、そういうことはできるのか。

事務局 公式ホームページの頁数は制約があり、上限に達すると削除するよう指導がくるので、広報担当と調整し、工夫したいと思っている。

委員 キーワードなど、検索しやすい情報がもう少し散りばめられているといいと思う。

事務局 市は情報を伝えるのが下手だと感じている。本当に必要な人に情報が届いていない、どうしたら改善できるか日々考えているところである。

委員 市の情報を調べたいときに、ホームページから情報を得られないという話がある。スレズやインスタグラムなど、誰かが書いた記事で情報を得るような状況。ホームページは外部に発注しているのか、市の職員が作っているのか。

事務局 基本は市の職員が作っている。外部の人材も雇っていると思うが定かではない。

委員 市のホームページで探したら簡単に見つけられるようにしてもらいたい。

事務局 検索機能の強化が必要と感じており、広報担当には伝えていきたい。

会長 市の公式 SNS はあるのか。

事務局 X（エックス）と LINE（ライン）がある。

会長 セミナーの案内などは必ず流すことになっているのか。

事務局 あらゆる手段を使って流すようにしている。

委員 市のホームページは頁数が多く、色んなジャンルの情報が取り込まれている中で、トップページから探すと探せない状況がある。自分で検索するときも、キーワードを入れて検索しないとたどり着くのは非常に難しい状況もある。どうやったら届けたい人

に届けられるのかは課題となっている。観光分野は、市とは違う組織の中でインスタをやリフォロワーを増やしている。ジャンルを絞ればターゲットも絞れるが、市はすべての人がターゲットとなってくるので情報量が多くならざるを得ず、なかなかたどり着けないので、そこは工夫をしていきたいし長年の課題となっている。

委員 多摩市は公式のインスタはないので立ち上げるなどして、注力を注ぐところを見極め、広報に長ける人を活用することも必要なのではないか。

委員 X（エックス）を見たところ、市のページへのリンクが切れている。古いものならわかるが、先月出たものがもう切れている、ここが信頼性を失わせる問題になりそう。あと、もう少しハッシュタグをたくさん使って情報の種類をわかりやすくしてもらえないとわからない。リンクの管理はWeb側の問題だと思うので気を付けないといけない。ハッシュタグはSNSの運用の話になるので、仕組みを少し考えた方がよい。

事務局 リンク切れなどについて管理者としてもしっかりしていかないといけないと感じている。ハッシュタグについて、短い単語で探す場合、ハッシュタグをつけていかないと簡単には見つけれないと感じているが、そこまでのルールがないので今後の検討課題と感じている。

会長 検索の仕方も今は変わってきていると思う。AIをかなり使うようになり、単純にキーワードを入れて検索するやり方からだいぶ変わってきているので、そこまで考えないと今はダメなのではないか。高校生はTikTokで検索するなど、そこは日々変わっていくものなので追いかけていかないといけない。産業の面でいうと、起業したいとか経営に問題を抱えているといった場合は探しづらい。説明を聞くと色んなメニューが揃っていると思うがそれが見えないので、メニューとして見やすくしてあげれば良いと感じる。産業振興マスタープランの事業について、市民側から見たら見やすく表現されるよう、産業振興としての情報発信をもう少ししっかりやった方がよいと思う。

事務局 今後どのように出来るか検討するが、産業振興で入って、その下に創業支援とか色々なメニューがあるが、そこをクリックすると次のページに進むなど、そういう見せ方もあるのではないかと思ったのでどんな工夫があるか検討していきたい。

委員 視覚障がい者が活用するホームページがうまくいかないと言相談を受け実際にやってみたらうまくいかなかった。

委員 事業所の改廃について、増えているのが医療・福祉で、減っているのが飲食・小売だが、医療と福祉は保険と税金を使ったビジネスだが、そのような創業が増えていくことについて市としてどう考えているか。市としてネガティブにとらえているのであれば、創業支援などで、多摩市で増やしたい業種に特化したメニューを用意した方がよいと思っているが、どう考えているか。

委員 医療福祉に関しては需要があるから増えていると認識している。高齢化が進めば医療が必要になり、それに伴い介護認定の数も増えている。障害を持っている方も年々増えており、学校の特別支援学級もほとんどの学校で実施している状況もあり、必要な業種であると考えている。産業振興の立場からすると地域の活性化につながる業種が減っていくのは見過ごせない。飲食・小売りなど消費者と直接対面する業種は増えてもらいたい。来年度事業で出店支援金の話をしたが、コロナの時は、空き床対策で業

種も絞らず、新しく開業する人に 100 万円支給する支援を、全額国の交付金で行ったが、来年度は一般財源を活用しながら、エリアも商店街限定で、飲食小売業を新たに商店街で始める場合の出店支援金を予算計上した。医療福祉も必要である一方で、街の賑わいを作る業種も合わせて創業していただきたいので、そういった取り組みを新年度盛り込んだところである。来年度予算が産業振興マスタープランを作った後の実質的初めての予算要求の中で、出店支援金もそうだが販路開拓事業、労働者のマッチング事業など、ここを出てきたものを何とか予算案に盛り込むことができた。最終的には来月の議会で決定して実施するが、財政状況が厳しい中で、ふるさと納税を活用して財源を確保しながら新規事業も要求したものを盛り込むことができた。来年度以降、一歩でも二歩でも進めていきたい。

会 長 マスタープランでは、若者を引きつけることを重要視しているところで、若い人たちが創業・起業が出来るような業種を、何かしらの形で誘導していくのは有りだと思う。出店支援金は一つのチャレンジだと思う。

委 員 昼夜間人口比データーで、2030 年の目標値は 110%となっているが、大型の商業施設や事業規模の大きい事業所を誘致することが必要になり、それに伴い飲食店などが比例して増えてくるところだと思うが、ホテルの誘致以外に市の施策として考えていることはあるのか。

委 員 2030 年に間に合うかはわからないが、尾根幹線沿線は市や UR、東京都の土地で、住宅地にあるマンションについては老朽化により建て替えを進めているが、沿道については商業・業務系のものでやっていくプランとなっている。現在、片側 2 車線の工事を行っており、車の交通の導線も確保できてくる。尾根幹線沿線の諏訪・永山エリアを中心に商業・業務系の誘致を図っていきたい。そこで一定程度の企業を誘致ができるのではないかと考えている。それ以外のところでは、駅前では若干土地がある所については、業種どうこうはないが、引き続き企業誘致活動を行っていきたい。

委 員 施策 09 業態転換、販路開拓等で、「医療的ケア児者を含む、道行くすべての人が対等な市民として関わりあえる場を立ち上げたい！」は、クラウドファンディングでの成功事例の一つだと思う。福祉としてはデイケアなどが多くなってくるが、商店街でデイケアだと土日はシャッター商店街になってしまうので、福祉プラスアルファの事例として具体的なのではないかと思った。類似な例、福祉プラスアルファで街の社会課題を解決していく副業型が増えたらいいなと思った。

委 員 ニュータウンエリアにある商店街は、シャッター街になってきているところがいっぱいあるが、一方で、力を盛り返してきているところとして諏訪商店街はここ 1 年で 3 店舗ほど、飲食店や喫茶店などを開いたりし、そこが中心となってイベントを開催したりしている。その様な取り組みが他の商店街でも起きようとしているところもある。やる気のある商店街について、出店支援金により支援をすることにより、活力が出ればいいと考えている。

会 長 飲食店は立地がすべてというところがあったが、コンセプトさえよければ意外と人が集まるといことはある。福祉と賑わいづくりのハイブリットのようなものは多摩市らしい部分であるかと思う。

- 委員 助成金が選べるのであれば、福祉プラスアルファで社会課題を解決する形は現実的でこれを考えたのはすごいと思う。
- 会長 「中小企業における中核人材の育成促進」は残念な結果に終わっていると思って、ニーズはありそうな気がするが何がいけないのか。人が集まらなかった理由など、どうとらえたら良いか。次年度は、合同企業説明会に変わると言うことか。
- 事務局 DX人材育成事業はいったん終了。令和8年度は新しい事業を立ち上げてそちらに注力していきたいと考えている。コンセプトを作る時のリサーチが少し甘かったと感じている。東京都の補助金を活用するところで、ある程度先駆的な内容でないと補助事業として採用されないところがあり、思うところは、近年事業所に入った若い人材がDXの技術を身に着け、長く会社に留まっていたいただき活躍していただきたいという思いでこの事業を実施した。ただ、拘束時間が長いこと、年4回の交流会の実施を考えるとなかなか応募するには難しいハードルがあったのではないかと感じている。むしろ年齢制限なく、勉強の仕直しをしたいということであれば、もっとニーズがあったのではないかと感じている。
- 委員 所属は50人くらいの中小企業だが、一人の人材が多分野でやっているので時間がない、やる気があるスタッフも多く人材には恵まれていてありがたいと思うが。自分たちでセミナーを探してきてそれに対して補助するという形が現実的で、週3時間固定という形は難しいと思う。それが若いスタッフであれば、次回やっても正直厳しい。
- 委員 2, 3年前に同じように都の補助金を使いながらやらしてもらったが、テーマは若干違ったが、すぐに一杯になってしまった。今回も一定程度は来てもらえると思っていたところ非常に人数が少なかった。前回もっと定員を増やせばよいと思っていたところもあり、要因がわからない。
- 委員 DXのセミナーを実施しているが、人材を集めるのに苦労している。テーマ設定が難しく結構幅が広く、もう少しピンポイントでテーマを設定しないと人を集めるのは難しいと感じる。
- 会長 製造業は事情が違うのではないか。
- 委員 セミナーなどについて回覧で回すが誰一人として手が上がらない。製造業に関わる講習会について、資格手当を出すと言っても上がらない。
- 会長 中小企業向けのセミナーの集客は大変なのか。
- 委員 勉強系は厳しい、法改正とかを踏まえれば集まるが、自分のためとなると時間の問題もある。前回のセミナーでは、1回受けると結構上達する、短い時間で出来るようなものが何コマかあったと思うが、130時間となると時間的に厳しい、1回1時間くらいで上達できるようなものはよい。
- 委員 会社では、教育の機会は与えられ、予算の範囲で行くことはできるし、無料のセミナーに参加している人もいる。DXについては、2, 3年前に全員受けさせられた。DXは企業のトップが本気にならないと進まないと言われていた。市のDX人材育成事業は、やりたい人が手を挙げるやり方だが、社長がDXが必要だから「あなたやりなさい」と言わない限りは動かない。鉄道部門の技術系は将来人がいなくなっても電車を走らせないといけないので、DXを推進しろということでトップの旗のもとに動い

ている。DXに手を挙げてやるやり方がよかったのか、もしかしたら法改正とかの対応や目先の仕事に役立つものの方が人気があるのではないか。それが事業として支援すべきか市の意見を聞かなくてはいけないが、テーマを変えた方がいいのではないかと話を聞いていた。

委員 リスキリングは一昨年くらいに流行ったが、うちの会社ではいくつかコンテンツがある中で、自由に選んでやるというやり方でやっている。偏ってしまい、暇な人がやる、必要な人は時間がないというジレンマに陥って、Web形式を止めて集合研修にもどした。DXは絶対的に必要なテーマだと思うが、募集形式で集まるかといったら少し難しいと思う。

委員 セミナー類に関しては、技術系の資格を取得させるためのセミナーは行かせるようにしている。今回のDXセミナーについて、内容は、ITパスポート及び基本情報技術者試験合格程度の知識の習得の内容なので、基礎的な知識の習得であり、会社に何人かいた方がよいといったイメージであり、DXと講座の内容について多少ギャップがあると感じた。会社としては数年前、DXを考えようとしたとき、DXは幅が広すぎて何をやるか考えている時間の方が長かった。

会長 DX人材育成事業の組み立てが、人材育成という大きなテーマがあり、都の補助金を使えるということもあり、その枠組みを活用するとこのような形にならざるを得なかったというところ。反省点として、ニーズをきちんと把握できていなかったという部分があった点で言うと、そうならないようにこの推進会議があると思っており、中小から大企業の方々があり、ニーズや課題の情報が入ってくるのがこの会議だと思っている。事業の進捗を見ながら意見を言わせてもらっているが、事前の部分、ニーズなどを聞いてもらえれば答えられる。市民の方もいるので市民意見としても入ってくるので、この推進会議が活用されるといいし、確度の高い事業ができるようにするというのも重要と思っている。チャレンジするのも大事だと思っており、難しい状況が起こることはある意味しょうがないこともあるので、そこから学んで次どうするかになげられるような議論がここでできればいいと思い、一つの事例として今後どうしていくかを示唆する内容だったのではないかと考えて伺わせていただいた。

委員 ふるさと納税型クラウドファンディングがもう少し話題となって盛り上がったらよかったと思う。情報がもう少し早くわかれば参加出来たりもできたが、多摩市のホームページからは情報を得るのはなかなか難しい。キーワードを入れても中々出てこない。公民館にあるチラシなどで情報を得るようにしている。年を取ってくると情報をどう取ったらよいか、知っていれば話題になるので、残念だと思うところがある。

会長 情報発信をどうやったか、どう工夫したのかを詳しく知らせてもらい、うまくいかなかった部分も含めて検証したり、こういったやり方もあるのではないかといいことも言わせてもらい、少しずつ変わっていけば良いと思う。

委員 情報発信とコミュニケーション、課題はチャンスであるので、取り組めば改善されてより良くなる。企業間、地域など異文化を交流させることによって活性化できるのではないかと考えた。

会長 口コミ、対面でのコミュニケーションが一番情報が伝わるので、会って話すのが一番

手っ取り早い、会う機会を増やしていくことも情報発信の一つのやり方なのかもしれない。

これで、第9回多摩市産業振興推進会議を閉会する。

(午後7時53分 閉会)

会議録：経済観光課商工観光担当作成